

平成から令和。C型肝炎・肝硬変はウイルス駆除後の新時代へ

肝臓川柳

新時代！ ウイルス0は 当たり前！
(0は・・・零は・・・れいは・・・令和)

いよいよ令和元年。

新時代の幕開けですが、C型肝炎・肝硬変に関しては、5年前に経口抗ウイルス剤（DAA製剤）が登場して以来ほとんどの患者さんが治療対象になり、治療すればほとんどウイルスが消失する時代となりました。

確かにウイルス駆除後、肝機能は良くなり元気になるのですが、逆に体重が増加したり、血糖やコレステロールが上がる場合があります。

さらに重要なのは、特に肝硬変の方は、肝がん発生のリスクがあまり下がらず、門脈圧亢進症（食道静脈瘤など）はむしろ増悪する場合があります、注意が必要ということです。

ウイルスが駆除されても定期的な通院、血液検査とともに画像検査や内視鏡検査のフォローが必要です。令和時代になりC型肝炎診療も新しい常識が必要となります。



これだけ覚えておいて損はない！ 今回のポイント

新しい経口抗ウイルス薬が登場以来、ウイルスが消失する時代とはなったが、逆に体重が増加し血糖やコレステロールが上がる場合があります。特に肝硬変の方は、肝がん発生のリスクがあまり下がらず、門脈圧亢進症は増悪する場合があります、注意が必要です。

(文：福井県肝疾患診療連携拠点病院 肝疾患センター長 野ツ俣 和夫)